

『コモンズ』 第5号 巻頭言

『コモンズ』第5号をお送りします。

本誌『コモンズ』は、2022年に〈未来の人類研究センター〉の機関誌として創刊されたオンラインジャーナルです。当センターの創設メンバーであり、前センター長の伊藤亜紗さんを中心として創刊されました。

当センターでは、毎年リアルアーツ研究教育院からメンバーを迎えて「利他」をメインテーマとして、専門分野の垣根を超えた協働研究を行っています。メンバーはそれぞれが2年間研究活動にとりくんで「卒業」してゆくという入れ替え式です。

と、このような仕組みをお話しするのは、本誌の編集に関わるからでした。本誌では、号ごとにセンターに所属するメンバーから成る編集委員が編集にあたります。その際、そのつどの編集長に担当号の編集方針も委ねられています。

これまで発行されてきたバックナンバーをご覧になるとお分かりのように、第1号から第3号までは、「利他」「余白」「あそび」といった特集テーマが設定されており、掲載する文章も、査読論文や研究ノー

トのほかに、論評やエッセイ、対談などが入っています。それに対して第4号では、投稿論文と研究ノートを中心とする構成が選ばれています。これらはいずれも、各号の編集担当チームが選んだ方針によるものでした。

本号も投稿された査読論文を中心とする構成です。それぞれの論文については、ぜひお読みいただくと、ここでは本誌の性格について一言述べてみたいと思います。〈未来の人類研究センター〉の特徴にも関わります。

本センターでは、異分野の研究者が集まって、「利他」をテーマに掲げていると先ほど書きました。これまでのセンターの歩みのなかで、あるいはさまざまな試行錯誤を通じて、利他という状態が、実に多様なかたちをとり、また、ままならないなかである次第も浮かび上がってきました。「思いがけず利他」とは、元メンバーの中島岳志さんの本の書名ですが、利他には意図して実現される場合もある一方で、たいていは思いがけず現れるという性質をじつによく捉えた言葉だと思います。

学術研究にも同様のことが言えます。ちょっとした関心に導かれて目を通した論文や、読んでみた文章が、あとで思いがけずなにかと結びついて、新たな思考や創意をもたらすといったことは、学術や発見の歴史をそのつもりで眺めれば、分野を問わず目に入ります。『コモンズ』もまた、そのような場となればなによりであると考えています。

また、本センターは特定の学術分野の専門家集団というよりは、異分野のメンバーが集ってああでもないこうでもないと話しながら、互いの問いや知をもちよって、交換したり共有したりするのが特徴です。本誌が掲載する論文の分野を制限していないのは、そうした問いや知の交換が起きる場であることをよしとするからであります。

といっても、なんでもありの混沌というわけではありません。本誌は東京科学大学を舞台として行われている研究の多様さの一端を映しだす鏡のようなものでもあります。気になる研究と出会ったら、ぜひそこからつながる多様な糸を辿ってみてください。きっと思いがけない場所に導かれるに違いありません。

山本貴光